

**古代の湖山池南岸地域②**  
～大柵地区の発掘調査成果～

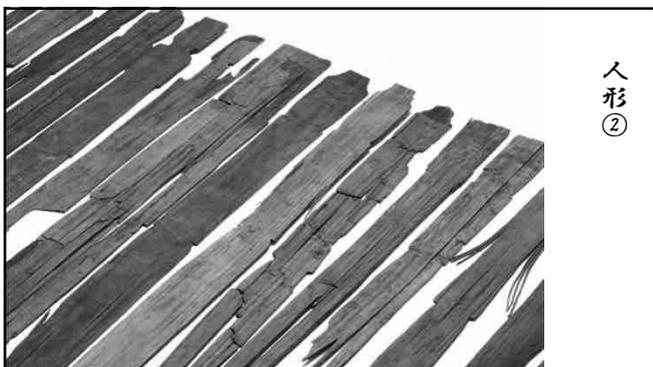
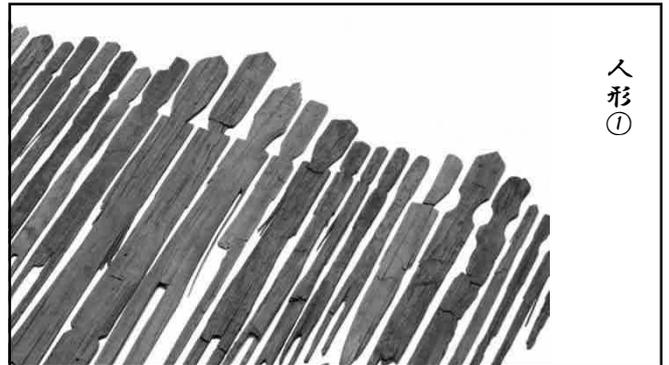
■大柵遺跡

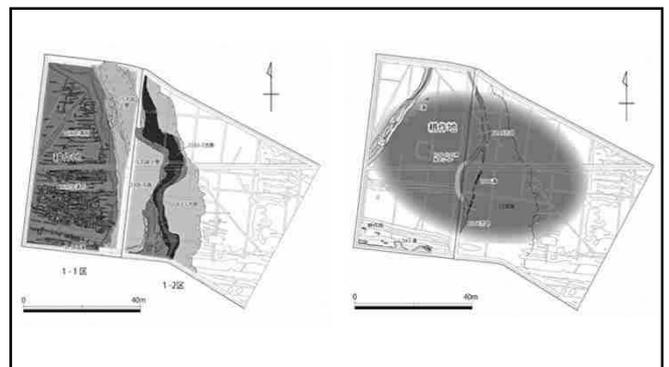
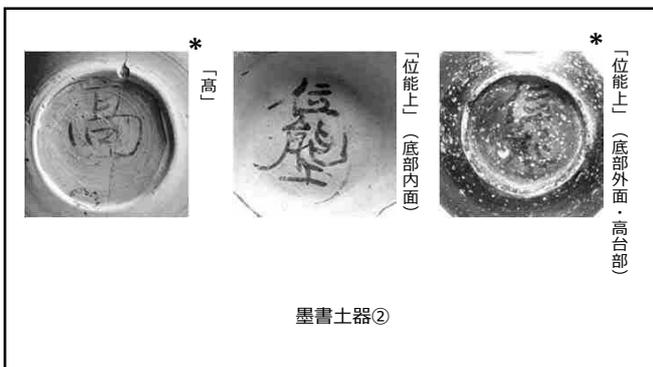
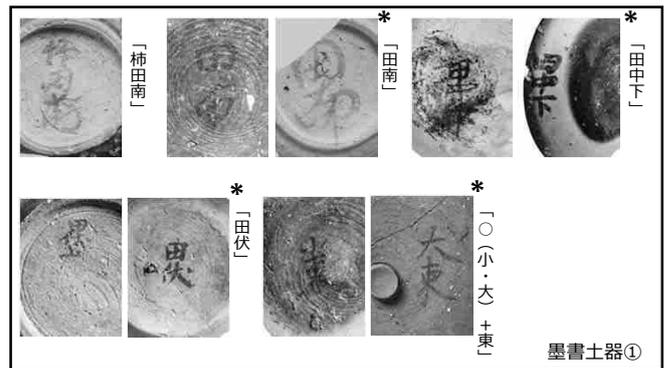
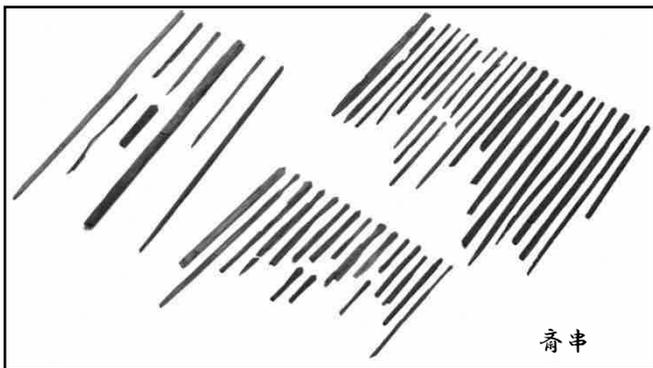
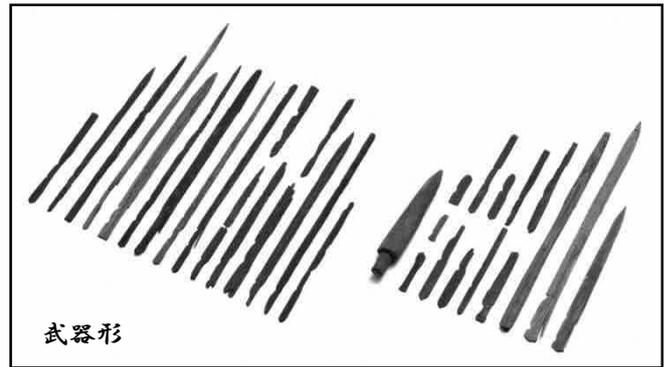
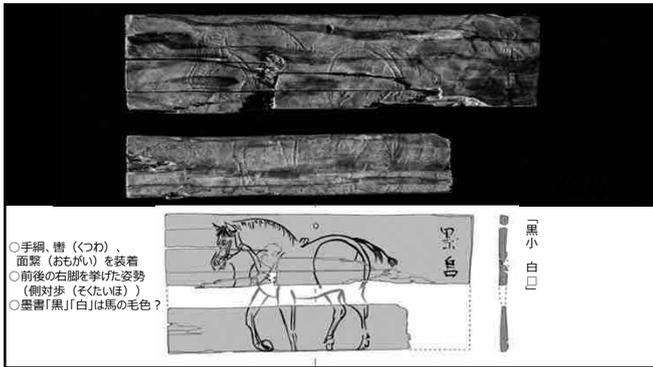
縄文時代後期～弥生時代中期の流路等  
古墳時代前期～中期の集落、流路（木製祭祀具、ウマの犠牲）  
**古代の屋敷地、流路、耕作地（水田・畠）**  
→掘立柱建物群（9世紀前半）、流路（8～11世紀）、耕作地  
銅製帯金具、銅銭（和同開珎）、木簡（付札・荷札・呪符）、  
墨書土器、大量の木製祭祀具（人形・馬形・斎串）  
中世の耕作地（水田）

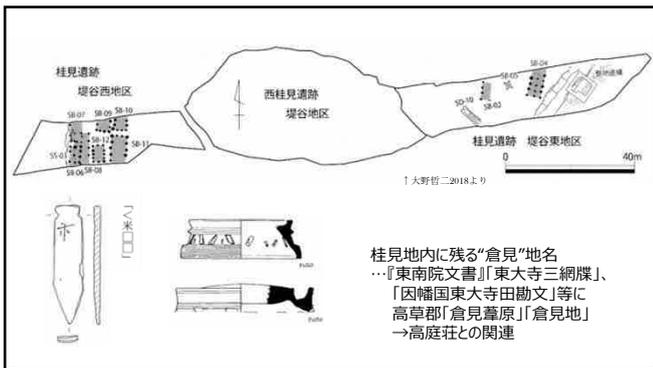
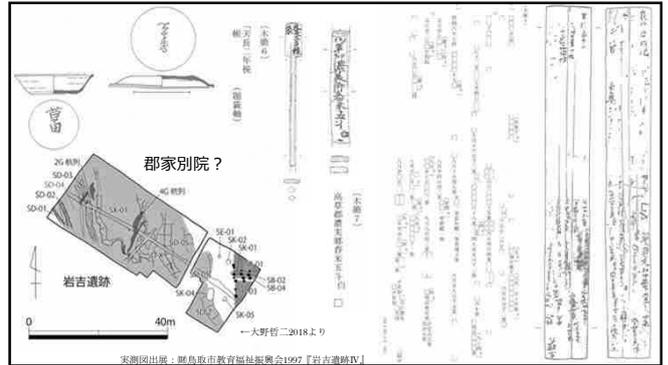
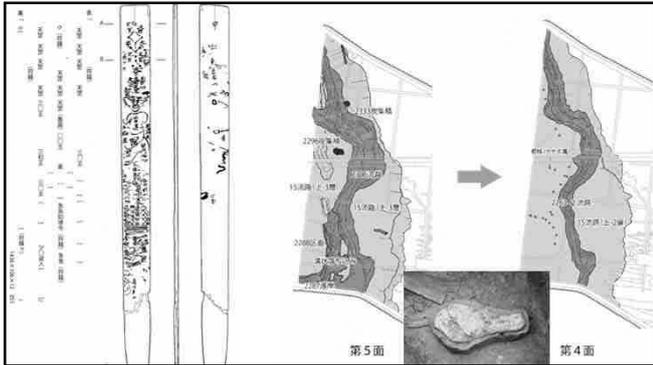
**古代の湖山池南岸地域②**  
～歴史的背景（古代）その2～

■東大寺領高庭荘の成立と荒廃

①成立  
天平勝宝8（756）年、東大寺野占使僧慶俊らが国司と在地の豪族・国造難磐の協力をえて占定した勅施入地に発する。  
その地積は67町9反余であったが、見開地が3町9反余存在。  
②売却  
延暦20（801）年に至り、東大寺三綱は55町1反余を代価4000束で参議藤原縄主に売却。  
延暦22（803年）には12町8反余が代価1000束で因幡国司藤原藤嗣に売却。  
③荒廃  
9世紀中頃以降、東大寺は荒田復旧・寺田回復運動をたびたび起こすが、いずれも成功せず、10世紀末には「悉く荒廢」と記される（東南院文書）。







**まとめ**  
**～湖山池南岸の遺跡と歴史Ⅱ～**

○湖山池  
天然の良港であり、湖山池を活かした水運を掌握することが地域支配を進めるうえで肝要

〈古代〉  
津、河川、馬、道路

〈中世〉  
守護所、港町、寺社、門前町